

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福祉会		
事業所名	グループホーム フラワーハイム		
所在地	福岡県八女市立花町下辺春5460番地1 (電話) 0943-37-1613		
自己評価作成日	平成22年8月31日	評価結果確定日	平成22年10月20日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「尊厳」のもと「フラワーハイム」では、お一人おひとりの個性を尊重した支援を目指します。「目配り、気配り、心配り」をモットーに入居者様が、毎日の生活に「生きる楽しさ」や「共に生活」する事によって生活に充実感を感じて頂き、このホームを自分自身の「居場所」として頂けるようにサポートして行きたいと思えます。又、職員自ら創意工夫し、安全・衛生面に配慮しながら入居者様の日常生活および人生経験を重んじ、笑顔の絶えない「わが家」のような暮らしをサポートして行きたいと思えます。入居者様の生活スタイルに合わせた自立支援のための介護を提供しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成22年9月22日	

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、山間の自然豊かな中で四季折々の風景や豊富な地元特産品が楽しめる環境にあり、長閑でゆっくりと時間が流れている。併設されている特別養護老人ホームとともに地域に根差してきた実績があり、地域住民の方々から野菜のおすそ分けがあったり、散歩の途中で気軽に声かけがある等、利用者の馴染みの関係の継続がなされ、地域の中で普通に暮らす生活が実践されている。また事業所では、利用者の希望や思いを尊重し、認知症のアセスメントシートを活用する等して、個別ケアを重視して支援している。管理者及び職員は、利用者一人ひとりの特徴を把握し、その人らしい生活を支援するため、一体となって取り組んでいる。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念「尊厳」を踏まえ、各スタッフ協議のもと部門目標を掲げ、毎朝朝礼時唱和を行い、日々確認しながら支援に努めている。	法人の理念をふまえ、事業所独自の地域密着型の視点を盛り込んだ基本方針がある。またその方針に基づき、毎年職員で協議して「部門目標」を立てている。朝礼やカンファレンスで理念を再確認しながら、日々のケアの中で理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日課としてホーム周辺地域の散歩を行ない、地域の方々と顔見知りになり又、地域の方々より野菜などのおすそ分けがあり又、ホームで収穫した野菜など届ける事で交流を持っている。	敬老祭やどんと焼き、清掃活動等の地域行事や活動に参加している。また近所の方々より野菜等のおすそ分けがあり、事業所からも作った野菜を届ける等、日常的に交流している。近隣の小学校・中学校からは、毎年、職場体験で訪問がある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の介護教室など要請があれば協力する体制を取っていますが、昨年度の実績としては、ありません。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回（年六回）の割合で市職員、区長、民生委員、家族、入居者、施設長及びスタッフの参加のもと運営推進会議を開催し、事業報告及び運営状況の報告を行なっている。議事録を作成し、家族及びスタッフへ配布し、内容把握に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、利用者やサービスの実際、外部評価への取り組み状況等を報告している。委員からは防火対策、利用者への対応等について意見をもらい、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて市の担当者や事業者（現場）の実情やケアサービスにおける課題を協議しながら、協働機関を作っている。又、運営に関する問題点や疑問等ある場合は、その都度窓口へ出向き、相談および助言をもらっている。	事業所は、行政担当者へサービスや運営等について報告・連絡・相談ができる関係を築き、意見や助言をもらう等、日常的に連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、委員会活動や研修会などに参加し、自己啓発に努めている。日々拘束を行なわない事を認識し、また言葉による拘束も行なわない事を意識している。万が一、事故等つながる恐れがある場合は、家族へ十分な説明を行ない、同意の基、実施する。（同意書の作成）	内部研修をし、全職員が身体拘束をしないケアについて理解している。身体拘束についてはマニュアルも作成している。日中、玄関は施錠していない。外出傾向のある利用者に対し、職員は日頃から利用者の行動パターンやサインについて把握し、職員間で見守り、声かけをしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、事業所内で虐待が見過ごされる事のないよう注意を払い、防止徹底に努めている。尚、入居者入浴時には、皮膚観察を行い、異変がないか注意を払っている。研修会には、積極的に参加し、虐待防止について学ぶ機会を持っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修会や外部での研修会に参加し理解を深め、必要と思われた入居者に対しては、支援できる体制を整えています。又、運営推進会議で議題として取り上げ、啓発に取り組んでいる。	職員は、内部・外部研修に参加して制度について学ぶ機会があり、その他の職員へは伝達研修を行っている。制度活用が必要と思われる利用者や家族に対しては、制度の説明を行っている。	制度について、利用者・家族に周知を図る為にも、利用開始時等に情報提供をしてほしい。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接時家族の不安や疑問などを聞き、契約時には、契約書及び重要事項説明書に沿って内容の説明を十分に行ない、同意を得て契約を行なっている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の段階で、ご本人や家族に対して相談や苦情の相談窓口の説明を行い、又重要事項をホーム内の見易い場所へ掲示を行なっています。日々、苦情等無い介護を本人及び家族の目線で、実践を行なっている。	利用者・家族等の意見は、日々のケアの中や家族来訪時等や運営推進会議時に積極的に声かけして、聴取するよう努めている。意見・要望・苦情等は、その都度協議し、運営に反映させている。第三者相談窓口については、家族等へ契約時に説明を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回カンファレンス会議を開催し協議し意見交換及び情報の共有を図っている。尚日頃から不満や提案など気軽に話し合えるようにコミュニケーションを図っている。	管理者は、積極的に職員と関わり、悩み等を共有することで、職員が意見を言いやすい関係を築いている。また、職員の資格取得に向けた支援を行い、職員が目標を持って生き生きと働ける環境づくりに努めている。法人内での異動はあるが、その時には十分な引継ぎ期間を取っている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営者は、職員個々と会話を持ち、日頃の努力や具体的な実績や勤務状況等を把握しており、向上心を持って勤務できるように配慮を行っている。又、法人の職務規定により、資格取得・経験年数に応じて昇給・昇進などを行い、職員が意欲を持って働けるように努めています。尚、必要時の助言を行い、話し合う機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用については、介護職の経験、資格呼び人間性を重視し、又、面接希望者に対しては、公平な面接を行なっています。又、研修会やグループホーム部会への参加などをバックアップし、スキルアップに努めている。	職員の採用にあたっては、人間性や経験を考慮し、性別や年齢等の理由で排除しないようにしている。職員が意欲を持って働けるよう資格取得等の支援をしている。また、職員の資格やスキルに合わせた研修を受講できるような勤務体制を整えている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権啓発、教育に関するテキスト等を準備し、法人内でも研修会を開催し、人権教育及び啓発に取り組んでいる。	利用者に対する人権の尊重を重んじ、年1回、法人内で人権教育を行い、法人全体で人権の啓発活動に取り組んでいる。また外部研修にも参加し、その他の職員には伝達研修を行っている。人権に関する研修記録、資料等がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格、力量に応じた研修を受講できるように体制を整え、又、受講後は、資料等をファイルし、確認及び情報の共有に努めています。又、法人主催の研修会を随時行ない、スキルアップに努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加し、同業者との交流及び情報共有に努めている。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みが、あった場合は、事前訪問もしくは、ホームに来て頂き説明及び本人の望まれる事、不安な点など伺いながらそれを受け止めるように努めています。相手の立場に立ち傾聴する事で信頼関係を気づき本人及び家族の思いを理解しご自身を支えるように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望がある場合は、随時見学を受け入れ、パンフレットに沿って説明、又、今現在お困りの点や不安な部分などを傾聴するように努めています。老健施設等入居されている方については、事前に訪問面談を行ない、本人のニーズを把握し、又、担当職員より情報提供を受けている。（アセスメント実施）		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた 対応に努めている	アセスメントの充実やADL等の情報を共有 し、必要なサービスの提供に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを 共にする者同士の関係を築いている	職員のペースによる声掛け等はせず、自ら意 欲的に参加されるような雰囲気作りに努めて いる。声のトーンや態度などに注意をし、支 援している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家 族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築い ている	本人が希望される際には、電話の取次ぎを行 い、家族と会話して頂き、日頃の様子や家族 への思いを伝え、ご家族と共に支え合えるよ う努めています。定期的にホーム便りを発行 している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	来訪の際には、居室やデイルーム等、ゆっく りと面会して頂けるよう努めています。ま た、ご本人が希望される馴染みの場所などへ のドライブなどの機会を提供している。	職員は、本人や家族等との会話の中で、利 用者一人ひとりの馴染みの人や場所につい て把握し、地域行事への参加、仏参りや友人と の面会等、馴染みの関係が継続できるように 支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用 者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃のコミュニケーションや様子観察によ り、入居者の関係を把握し、極力トラブルな ど招かないよう支援を行なっています。又、 発生時には、両者の思いを汲み取りながら仲 裁行い、他入居者にも不安を与えないよう配 慮し、場の雰囲気を変えるなど支援を行なっ ている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を重 要にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォロー し、相談や支援に努めている	契約終了については、現在入院転院後死亡さ れたケースしかなく、契約終了による家族か らの依頼などありません。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の希望意向を大切に、把握困難な場合は、本人の視点に立ち、思いを汲み取るように努めている。その為、日頃よりコミュニケーションを十分に図り、本人の意向を汲み取るように努めている。	職員は、利用者との日々の関わりの中で、表情や言葉、行動等から思いを推し量り、外出・自宅外泊・アルコール等の嗜好品の提供等、思いに副った支援に努めている。また、意思疎通が困難な利用者については、声かけを多くし、観察に重点を置き、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族よりこれまでの暮らしぶりや趣向を含めた生活歴を伺い、センター方式に取り組み、職員間で情報の共有を行なっている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で本人の出来る力、理解力、可能性を見出すよう努めています。各職員は勤務前にケース記録等により状態を把握し、毎月のケアカンファレンスでは、処遇会議を持ち、モニタリングを兼ね、総合的に現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やケアカンファレンスを通じ、本人・家族のニーズに合った課題やケアのあり方について話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即したケアプランを作成し、振り返りも行なっている。	本人・家族・主治医の意見等を反映した介護計画の原案を作成し、職員間でのカンファレンスで話し合い、計画を決定している。3ヶ月に1回また状態の変化に応じて、現状に即した介護計画を見直している。作成した介護計画は、本人・家族等から了承の署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録には、生活の様子やケアの実践、結果、気づきを記入し、記録を基に職員間のケアに反映し、ケアプランの見直しにも参考にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医での受診など、本人・家族の状況、要望に応じて、柔軟な対応に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職場体験や専門学生の実習を受け入れ、又、舞踊や大正琴の演奏などのボランティアなどの受け入れ体制を行なっている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診があり、本人及び家族の希望があれば、馴染みの医師により継続的な医療を受けられるように援助を行っている。	一人ひとりの受診経過を把握し、希望する医療機関での受診を継続的に支援している。家族等と、受診時の通院介助の方法や情報の伝達について、話し合っている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より、主治医及び看護師に相談、助言を仰いでいる。又、併設の特養看護師と連携を行い、緊急時には対応できる体制である。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、家族の同意のもと情報提供を行なっている。入院中も交代で、スタッフが面会に行き、関わりを継続し病院期間とも連携を図り、短期間の退院に繋がるように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を説明・確認を行なっている。又、終末期を安心して療養されるように、ホームで可能な事、困難な事、不安な事を率直に話し合い、同じ思いで家族やかかりつけ医と連携を図りながら支援していく体制である。	契約時に「緊急の場合に関する同意書」は取っているが、重症化や終末期のあり方についての事業所の対応方針は、特に説明していない。今後、事業所内の職員体制を整え、対応方針について内容を検討する予定である。	重度化や終末期のあり方について、事業所の対応方針を明確にし、文書として作成してほしい。利用者・家族等の意向を尊重しながら、方針の共有と重度化した場合等の支援体制を整備してほしい。
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部や法人主催の研修会に参加し初期対応や応急手当についての知識を学んでいる。尚毎月のカンファレンスでもマニュアルを確認し周知徹底を行っている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、法人全体の避難訓練を消防署、地元消防団、地域住民を迎え、避難経路、場所、方法及び消火訓練を実施し、ホーム独自に毎月避難訓練、マニュアルの再確認を実施している。	非常災害時の対応マニュアル、緊急時連絡表を作成している。年2回、法人全体で避難訓練を実施し、消防署・消防団・区長から有線放送で呼び掛ける等、地域住民の協力体制は整っている。また、月1回、事業所独自で避難訓練を実施している。非常用備品等は、一部隣接施設に準備している。	災害に備え、非常用食料・飲料水・備品は一括して事業所内に準備してほしい。
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を基本に、本人の思いや気持ち、誇り、プライバシーを損なう事がないよう声掛けや対応を行なっています。個人情報の保護には法人全体で研修計画に組み込み、利用者一人ひとりの思いに寄り添った対応をしている。	職員は、利用者一人ひとりの気持ちや思いに寄り添い、声かけや対応を行っている。個人情報保護法について内部研修を行い、職員の意識向上を図り、利用者のプライバシーに配慮している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴を心掛け、日々の生活の中で表情や会話から希望や願いを察し、支援を行なう様になっています。レクリエーション等を行う際には、個人の希望を優先し、取り組みを行っている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとして大まかな1日のスケジュールは組んでありますが、一人ひとりの生活のリズムに合わせ臨機応変に対応し、利用者の状態や意志を尊重しながら、対応を行なっている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用される場合は、事前に希望を伺い、満足されるよう配慮しています。衣類については、家族より準備して頂き、更衣の際には、本人の好みで選んで頂くよう心掛けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常法人併設の管理栄養士が献立を作成し、利用者の嗜好や希望に応じてアレンジを行なっている。調理の下ごしらえ、料理の味見、引き膳など利用者のできる事を生かした支援を心掛けています。又調理する際の匂いや音などが五感に働きかけ、食事が楽しみになるよう工夫している。	職員と利用者は、一緒に食事の準備や片付けを行っている。また、職員は、利用者と同じテーブルで同じ内容の食事を一緒に取り、食材やその日の出来事を話題にし、食事を楽しむ雰囲気作りに配慮している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のチェックを毎食後行い、把握に努めています。水分補給に関しては、テーブルにお茶を準備し、何時でも飲んで頂けるようにしています。水分摂取量の少ない方には、こまめに声掛けを行ったり、その方の嗜好に合わせた飲み物にて対応を行なっている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態に合わせた方法で口腔ケアを行っています。毎週土曜日、就寝時に義歯を預かり洗浄を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い、介助が必要な方の排泄間隔、兆候を把握し、誘導を行っています。日中帯と夜間帯で下着とリハビリパンツの使い分けを行っている。	職員は、排泄チェック表を作成し、利用者一人ひとりの間隔や排泄の兆候を見逃さず、さりげなく誘導を行っている。パットやおむつの種類、使用する時間帯の工夫をし、それぞれに合った排泄ケアを実施している。失禁の際は、周囲に配慮しながら、迅速に対応している。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状態を確認し、主治医による医学的管理も含め、対応を行っています。又、水分補給や食事摂取の際、野菜や繊維物等を積極的に取って頂く様、心掛けています。心身の状態に応じて体操・散歩等、身体を動かして頂く様、支援を行なっている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者一人ひとりの希望に応じた湯量・湯温にて、対応を行っています。入浴拒否がみられる場合は、声掛けや誘導方法の工夫、職員を変えての対応を行ないながら、スムーズに入浴に向けて取組んでいる。	大まかな曜日時間の設定はあるが、利用者の希望にあわせ、入浴を楽しめるよう支援を行っている。入浴拒否の利用者については、時間を変えタイミングを計る等、工夫をしている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握し、不眠の方については、なるべく眠剤に頼らず声掛けや見守りを行う事で、対応を行なっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者全員の服薬状況表を作成し、見やすい場所に置き、把握を行なっている。又、処方箋の変更追加の際には、P C・服薬管理表にて把握し、薬の副作用・効能については専門書を準備している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴を把握した上で、家事手伝い等において役割を持って頂き、畑での野菜作りでは、収穫を楽しみにされています。又、バスハイク等、気分転換の機会を提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の状態や希望に応じ、日々の散歩、バスハイク、畑仕事や収穫作業など、戸外に出る事を意識し、支援を行なっている。	利用者のその日の状態や希望に応じ、散歩や買い物、四季折々の花見のドライブや運動会等の地域行事への参加等、家族や地域住民の協力を得ながら外出支援を行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解していますが、認知症の進行に伴い、金銭管理困難になられており、一部の入居者の方が小額所持されている以外は、家族と相談の上、事務所で預かっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望される場合は、電話や手紙などの代行を支援している。又、家族宛に年賀状や暑中見舞いなどの援助を行ない、家族より喜ばれている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるような工夫を行なっている。	共用空間は、食卓用のテーブルと椅子、ソファを設置し、窓からは季節感を十分楽しめ、彩光や配色、職員の声のトーン等にも配慮し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームには、ソファやテーブル、椅子など思い思いに過ごされるように設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使い慣れた生活用品や衣類、写真アルバム等持ち込んで頂き、なじみの物の中で自分らしく生活していただけるように配慮を行っている。極端な生活環境の変化による認知症の進行に、細心の配慮を行っている。	各居室の入口には手作りの表札を掛け、利用者の馴染みの物や使い慣れた物を持ち込んでいる。また、家族写真やアルバム等を飾り、利用者が安心して過ごせるよう工夫している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所には、手すりを設置し、又、浴室にはシャワーチェア、滑り止めマットなど介護用品も設置している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	-	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	-	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	-	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	-	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	-	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	-	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	-	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている
				②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない